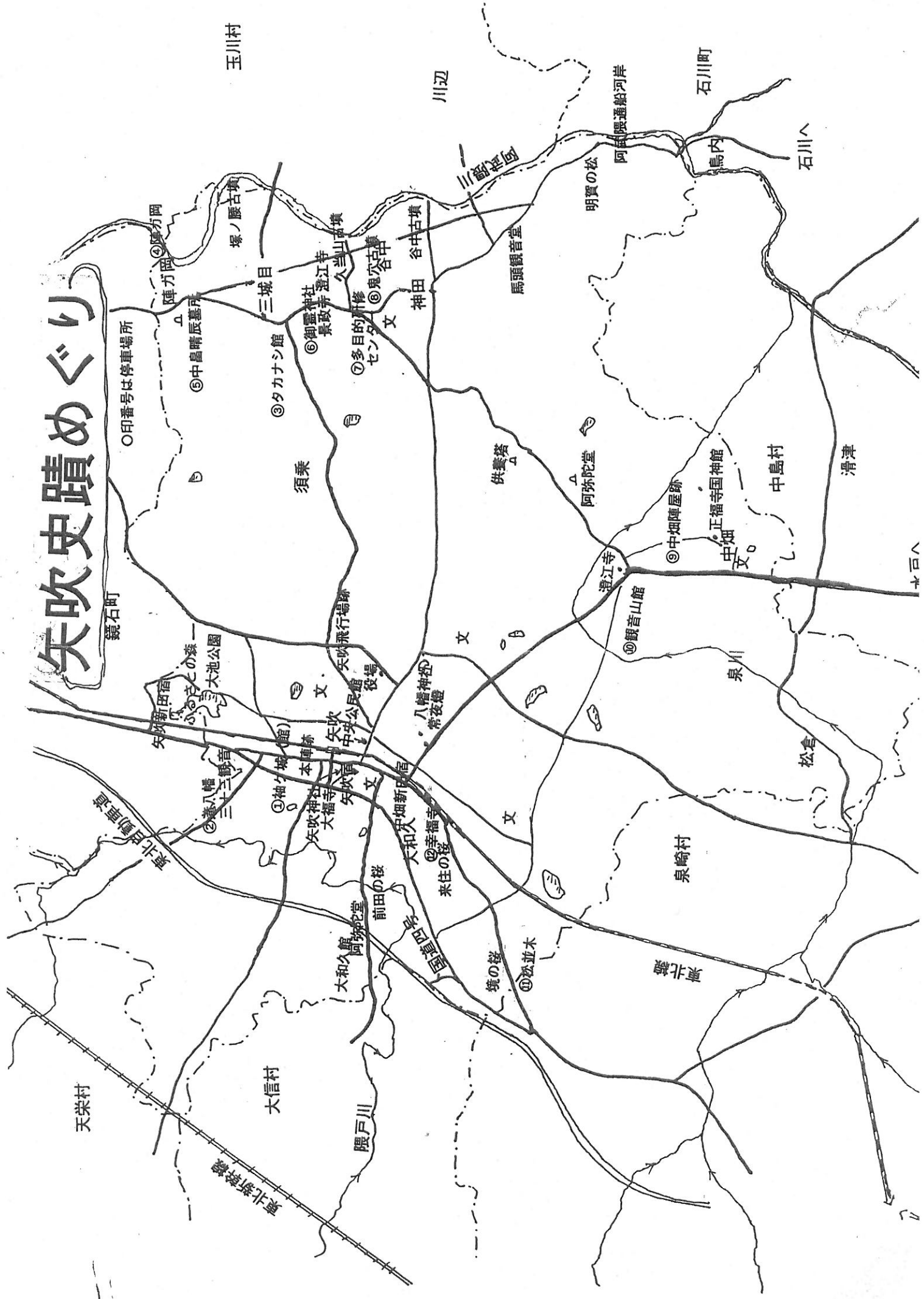


矢吹史蹟めぐり

○印番号は停車場所



天栄村

大信村

隈戸川

川辺

三筋地区

阿武隈通船河岸

石川町

石川へ

鳥内

須乗

供養塔

阿彌陀堂

中畑陣屋跡

正福寺国神館

滑津

中島村

澄江寺

観音山館

泉川

松倉

泉崎村

磯子原

鏡の碛

松並木

前田の碛

大和久

幸福寺

来住の碛

大和久

矢吹

大福寺

矢吹神社

本陣跡

矢吹

三十三観音

八幡

新田宿

森の森

大池公園

鏡石町

陣方岡

塚ノ腰古墳

玉川村

石川へ

石川へ

文化財巡り (中畑地区)

平成28年度歴史講座 1

中央公館



寺内阿弥陀堂供養塔 (字寺内)
矢吹町指定有形文化財



阿弥陀堂本尊供養塔 弘長元年
(1261) 銘の板碑で県内でも
最古に属す。種子阿弥陀三尊

国神館城跡 (字国神)
町指定史跡文化財



興国年間(1340~)石川九郎
光幹が館城にはいり中畠を称した
と言う伝いがある。中畠氏の居城
やがて観音山館に移る。
周辺の地名に、南都城・西都城・
東都城・内屋敷・森廓がある。
大日堂本尊供養塔は大日如来種子
の板碑で館城との関連が考えられ
る。

正福寺本堂格子天井絵 (字原宿)
町指定有形文化財



本堂内陣格子天井絵42枚、外陣
格子天井絵42枚、
外陣天井絵は岡崎竹堂筆

陣屋の二本カヤ (字本村)
県指定天然記念物



旧陣屋庭園内の古木。陣屋当時から
生育し残された名木。

※ 旗本領 陣屋跡

建物はないが庭園の一部はうかが
える。陣屋は代官が任地に造営し
た役宅。

天保8年(1837)領主は旗本
松平軍次郎にはじまり、松平万太
郎、松平巨摩之助と幕末まで続い
た。

観音山館跡・八幡神社 (字根宿)
町史跡文化財



石川九郎光幹より7代目の中畠上
野介晴辰が造営(正平年間(13
46~))し、国神から移転した

中央公民館



観音山館跡全体図 (1 : 3000)

文化財巡り (三神地区)

平成28年度歴史講座 4

中央公民館



タカナシ館城跡 (字本城館)
町史跡文化財



鎌倉時代(1192~)に小松越前が築城しその後伊藤氏が代々治めていた。

永禄年間(1558~1570)伊藤大学祐春が没すると、観音山館城主中島晴辰が譲りわたしを迫り、子祐勝は幼少で支配下にはいった。

陣ガ岡 旧石器出土遺跡 (字陣ヶ岡)



約2万年前 後期旧石器時代の石器出土地 成田型刃器 14点

伝 中島晴辰 墓石 (字天開)



天正18年(1590)豊臣秀吉の奥州仕置きで追放された中島晴辰は相馬に落ちのびようとして、行合の渡りで農民に殺害され、家来の赤塚掃部が首を墓地に葬った五輪塔。

景政寺・仮名板碑 (字三城目)

御霊神社



祭神

村岡忠通

鎌倉権五郎景政

天台宗叡山派 本尊薬師如来木仏
康治2年(1143)鎌倉権五郎景政を葬り寺号を景政寺とした。境内に嘉禎2年(1236)の仮名書き板碑がある。集古十種に記載がある。

鬼穴古墳群 (字神田東)

県指定史跡文化財



六世紀後半の円墳 埴輪片が出土している。

谷中古墳群 (字谷中)

町指定史跡文化財



六世紀後半の前方後円墳 埴輪片 鉄鏃 耳飾 出土

明新供養塔 (字明新下)

町指定有形文化財



馬頭観音堂

弘長4年(1264)銘の板碑
町内では三番目の古さ、県内でも古く貴重 種子大日如来



タカナシ館跡全体図 (1 : 3000)

文化財巡り (矢吹地区)

平成28年度歴史講座 6

中央公民館



五本松の松並木 (字五本松)
町指定天然記念物



寛永12年(1635)三代将軍徳川家光時代に参勤交代の制度を定め、街道の整備が進められた。この松並木は、白河藩主松平定信が領内街道に2300本植えさせた名残と言われている。現在の道床や松は、明治18年県令三島通庸による奥州道中改修工事の際、補植、改修されている。

戊辰戦争関門跡 (字五本松)



慶応4年(一八六八)戊辰戦争の際矢吹宿に陣営を置いた奥羽越列藩同盟軍はここに関門を設け出入りを監視した。旧道は南の山腹

・藩界碑



高田藩領＝大和久村と白河藩領＝中畑新田村の藩界を示す碑。小針家邸内に移動保存されていた

幸福寺(新) 小針重雄 えい髪之碑



明治17年(1884)自由民権運動家 小針重雄は加波山事件連座して処刑され、墓は上野谷中にあるが、家人が遺髪を小針邸内に納め碑を建てていた。新幸福寺ができてここに移された

旧幸福寺 仙台藩兵の墓



戊辰戦争の戦死者仙台藩水沢支藩木内幸三郎直久の墓(24歳)

旧水戸街道常夜燈 (字新町)



中畑神田宿水戸街道分岐点の常夜燈(文化6年(1811)地元有志によって建てられた。

矢吹宿

大福寺 水沢藩兵の墓

→

戊辰戦争の戦死者仙台藩水沢支藩
17名の墓

最後の本陣跡

→

文久3年(1863)脇本陣、
元治元年(1864)本陣
佐久間祖名吉
明治天皇巡幸時の昼食休憩所

下の地藏尊

→

通称「下の地藏」寛延2年(17
49)矢吹新田村庄屋會田太郎左
衛門 勸左衛門 建立

滝八幡・三十三観音磨崖仏群
町指定有形文化財

〈 別紙 〉

袖ヶ館城跡 (字館沢)
町史跡文化財

〈 別紙 〉

中央公民館

滝八幡社

三十三観音磨崖仏岩壁の上部の岩に滝八幡社と呼ばれている石の小祠が鎮座している。

『白河風土記』巻十一（文化二年（1805）刊）に「滝八幡宮」とあり、社地東西三十間南北六十間で「康平年中（1062）八幡太郎義家朝臣奥州賊徒征伐（前九年の役）凱旋ノ折建立アリテ社ノ屋根ヲ箭柄ニテ葺タリト云伝フ・・・」とあり、これが地名の矢吹・屋葺のおこりと伝えられている。南方に数條の細い流れがあり馬の尻尾のように落ちる「馬尾の滝」があり、傍らの岩に弁慶の足跡、馬の蹄跡があると記されている。今にその面影を伺えるものはなく、前述の小祠と馬尾の滝の名残のみである。

付近の地名に、西陣場峰・旗鉾・南陣馬池などあり「前九年の役」の陣屋であったとも考えられる。山続きに、石川氏一族に列する矢吹氏の居館とされる館城「袖ヶ館」がつけられている。

三十三観音磨崖仏群

矢吹町指定有形文化財
(昭和56年5月1日指定)

白河市大信隈戸（くまど）地内に端を発する隈戸川が、大きく蛇行し、八幡山をけずり露出した大きな安山岩の岸壁の彫刻しやすい面を選択してほぼ一列に尊像が並んでいる。

尊像は、剥落などもあるが、37体刻まれている。平成9年の調査の結果によれば、

薬師如来1体、

阿弥陀如来1体、

菩薩33体、

地藏菩薩1

聖観音菩薩10

不空縹索観音菩薩8

千手観音菩薩5

馬頭観音菩薩2

准胝観音菩薩1

十一面観音菩薩1

如意輪観音菩薩5

※

観音=観世音

尊名不詳2体、

薬師如来と阿弥陀如来は、山上部に彫られている。その他の33体の尊像は川に面した山下の岸壁に彫られ、最初の地藏菩薩をのぞき、他の32体は観音菩薩と思われる。

観音菩薩は、33種類ではなく7種類の観音像を重複させながら32体を表現し、加えて地藏菩薩1体でこれらの事から「三十三観音」の呼称が生まれたものとうかがえる。

江戸時代中期に「三十三観音」信仰の盛行にともなって造立されたと思われる。

磨崖仏は、大きさはほぼ等しく、作風も共通するところから同時期に作製されたものと思われるが、石工名・寄進者名、正確な年紀は不明である。『白河風土記』巻十一に、三十三観音の記載があり、「三十三観音」と呼称されていたことがうかがえる。『白河風土記』は文化二年（1805）の成立であるところから、それ以前に彫刻されていたことは確実で、尊像の像容から江戸時代中期の図像との共通点があるので1750年以後1800年の間にその製作年代を推定している。

※ 岩壁の隧道は？

尊像が彫られた岩壁に隧道跡がある。三十三観音とは無関係で、これは、久来石の星善之助らが、久来石地内の用水確保をはかり、隈戸川に堰を設け八幡山に用水路を掘削して導水しようと計画した（明治二十四年）。しかし、なぜか中断している。

その後、大正九年息子星幸太郎が、久来石上区耕地整理組合長として親の遺志を継承することとなり、工事を再開した。しかし、難工事となり工期の延長による資金難と設計の不備により、星は私財を投じ奮闘したが工事は完成することなく、親子二代にわたる計画は挫折した。隧道はその名残である。

近年矢吹町2区自治会の区長会と地域支援者が、「地域の宝 自然環境・人の輪 絆を未来の子どもたちへ」を活動理念として、三十三観音史跡公園遊歩道美化奉仕活動に取り組んでいる。

袖ヶ館城跡

矢吹町史跡文化財

所在地 矢吹町 矢吹字館沢

平安時代の後期、前九年の役（1062）・後三年の役（1087）の戦功により、河内の石川頼遠・有光が仙道の地を拝領して石川の地にはいり、藤田城（現石川町中野）に居城した。後に石川氏は三蘆城を拠点とした。矢吹の地は石川郡に属し、以後戦国時代末期まで石川氏の支配領域内であった。石川有光の弟基時（矢吹下野守基時）が、東山道の押さえとして袖ヶ館城（矢吹城）にはいったとされる。その後、矢吹氏がこの地を所領し南北朝期から室町・戦国時代にかけて、主家石川氏に属しながら矢吹の地を支配した。

矢吹氏は天正十七年（1589）の須賀川落城の際には石川氏と共に伊達政宗に服属し、二階堂氏を攻め一時須賀川城を与えられたが、天正十八年豊臣秀吉の「奥州仕置」によって伊達氏が岩出山に国替えとなり、石川氏・矢吹氏等一族郎党はこれに従い、袖ヶ館城は廃城となった。

以後、矢吹は奥州街道筋の宿場町として栄えることになる。

『白河風土記』巻十一（文化二年（1805）刊）に「往古矢吹十兵衛居住ス 荒凜ノ地ナリ矢吹十兵衛ハ石川昭光ト共ニ仙台ヘ属スト云フ」とある。

館城は、隈戸川を外堀とし自然の丘陵を活かした平山城で古館、館山、柳堀込の三地点からなり土塁、空堀、水濠で地形的にはそれぞれ分断している。

古館（通称詰の城）は、居住地でなく砦的施設で、古い印象を与える遺構である。

館山は、中枢部分で土塁、空堀が周回する。15世紀かそれ以前の成立と考えられるが戦国末期に改修されている可能性があり、主郭と副郭がつくられ存続期間の長さが感じられる。

柳堀込は館池の東側の外郭・曲輪（くるわ）部分でその構築は16世紀後半と推察される。家臣団の屋敷地、町場・集落を取り込んだ総構え的曲輪と考えられる。なお、周辺には、鉄砲小屋、陣場などの地名がある。

やぐら

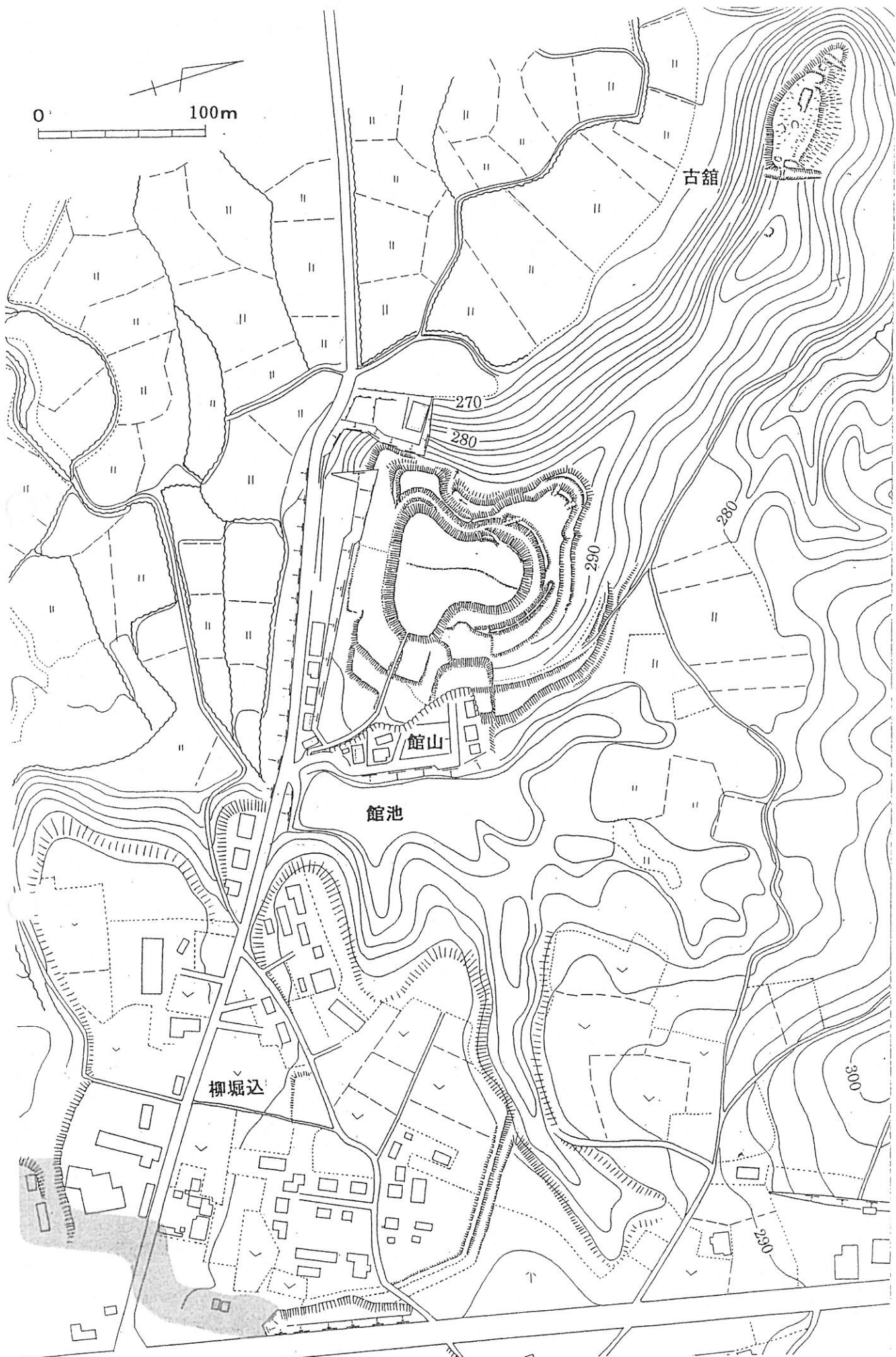
（矢倉 谷倉）

矢吹町史跡文化財

「やぐら」とは、鎌倉・室町期に山腹の岩石をくり抜いて造った墓や祈願所で、館城の一画につくられた。また、貯蔵倉としての岩窟も「やぐら」といわれていた。

鎌倉周辺に多くみられ、墓所の場合は納骨し、五輪塔、宝篋印塔（ほうきょういんとう）を置いたものが見られる。

ここ袖ヶ館城の一画に、二箇所「やぐら」跡がある。岸壁を彫った龕（がん）内に五輪塔が彫られている。城主の火葬墓と考えられる。館城の守り神、祖先崇拜、戦勝祈願など重要な役割をになっていた「やぐら」にちがいない。



袖ヶ城跡全体図 (1 : 3000)